

4 月 22 日に、本校 6 年生 51 名を対象に実施された「全国学力学習調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の 2 教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果

国語 AB・算数 AB とも残念なことに、全国平均・京都府平均を下回りました。しかし、無解答率も、全国平均・京都府平均を下回っている問題が何問もあり、何かしら、問いに対する答えを導き出そうとする姿勢が見られました。

テスト結果より

国語科より

- 漢字は得意であるが、故事成語など知らない言葉が多い。
- 情景描写を捉えることが苦手である。
- 友だちの意見を聞いて判断したり、考えたりすることが苦手である。

算数科より

- 解答が 2 つあるにもかかわらず、1 つだけを選択している。
- 学習内容と生活経験が結びついていない。
- 文章を図式化する力が弱い。

児童質問調査より

- 夢や目標はあるが、夢や目標のために難しいことに挑戦しようとする児童が少ない。
- テレビやビデオ、DVD をみるためには時間を費やすが、勉強には時間を費やそうとはしない。
- 読書が好きと答えている児童が少ない。

解決のために...

学校での取組

- ★児童が満足の得られる授業展開
(主体的な学びを提供する場・子どもの主体性を導き出す授業・自ら進んで活動する仕組み・子どもの発言を教師が訳さず、そのまま全体へ)
- ★朝読書の取組についての見直し
(子どもたちが読みたいと思う本の充実・様々な教科での図書館活用)
- ★ノート指導の定着
- ★生活や他教科に活用する力の育成

家庭でもやってみてください

- ☆子どもの意見や考えをくみ取るのではなく、最後までしっかり聞きましょう。
⇒その物事の裏にあることを読み取ることが大切です。
- ☆読書を楽しむ時間を。
⇒想像力を高めることが問題を読み取る力につながります。